

東京にオリンピックを呼んだ男

御坊ゆかりの国際人 **和田 勇**

御坊市名誉市民 第1号



和田勇氏は、明治40年にカナダ国境に近い米国ワシントン州ベリ
ングハムに移民二世として生まれ、4歳の時に日本の祖父母のもと
に預けられ父の故郷、和歌山県御坊市名田町祓井戸と母の故郷、由良
町戸津井で幼少時代を過ごした。その時の漁村での助け合いの生き
方が終生変わらぬ奉仕の精神の原体験となる。9歳で再び父に米国
に呼び戻された後、12歳で農園の雑役夫として住み込みで懸命に働
き、20歳で独立し、数年後には複数の店舗で食料品小売商を営む実
業家となる。太平洋戦争開戦により130人の日系人を引率しユタ州
に集団移住した。戦後は、ロサンゼルスに移り「ファーマー・フレ
ズ・マーケット」を開業、持ち前の才覚と働きぶりで、17店舗まで拡
大する。昭和24年、戦後の日本にとって初の全米水泳選手権大会に
参加した古橋廣之進氏ら9名を自宅に泊め、献身的に世話をした。選
手らは数々の世界新記録を樹立、「フジヤマのトビウオ」の名は世界
を駆け巡り、敗戦後の日本人、日系人に光明を与えた。これがきっ
かけとなり、東京オリンピック誘致の特命全権大使級の権限を当時の
岸総理から与えられ、私費を投じて夫婦で中南米やヨーロッパ諸国
の関係者を訪れ、支持を呼びかけ1964年の東京オリンピックの開催

が実現した。この努力がなかったら東京大会は実現しなかったともいわれている。オリンピックを起爆剤として始
まった高度経済成長に和田氏の果たした役割は大きく敗戦後の日本の復興を早め、国際社会の仲間入りに大きく貢
献した。その後、メキシコオリンピック、ロサンゼルスオリンピック、札幌冬季オリンピックの委員等として、その誘
致に努力した国際人でもある。晩年は福祉事業に力を注ぎ、日系人高齢者のための「日系引退者ホーム」の建設に奔
走した。和田氏は、人のため日本のために我が身を捧げた人であり、昭和39年勲四等瑞宝章、平成元年勲三等瑞宝章
を受章するほか、昭和59年吉川英治文化賞を受賞、平成13年2月12日肺炎のため93歳の生涯を閉じた。その後平
成16年、御坊市制50周年を記念し、御坊市名誉市民の称号が贈られた。



▲御坊寺内町会館の一角に設けられた
和田勇氏の資料館



▲御坊市役所の敷地内に建設されている
和田勇氏のレリーフ